

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902306		
法人名	有限会社 健昭会		
事業所名	グループホーム 太陽と緑 (太陽棟)		
所在地	旭川市旭神町19番地36		
自己評価作成日	平成24年2月9日	評価結果市町村受理日	平成24年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム太陽と緑は、大雪山連邦を望み、その大雪山に源を発する石狩川と忠別川に包まれる緑豊かな風景が広がる旭川市旭神地区に平成17年8月に開設し6年の歳月を迎えています。開設当初より、介護の方向性を個別ケアに重点を定めて、認知症疾患を発症しても「穏やかで安心してその人らしく暮らせる」「地域の中で一人ひとりを大切に、心のふれあいの出来る自由な生活の場」である事、そして信頼され馴染みの関係を目指しスタッフ一同、状況の観察と常に傾聴する事をもつとにスタッフ全体で情報の共有化を図り、一人ひとりの生活が本人本位のペースであるように、身体面、精神面の状況に応じたサービスを柔軟に支援できる事を心がけています。又、各協力機関の連携と支援を受けて看護師・介護員との共働も密にあり、利用者様の生活が長く穏やかに暮らせる施設を 共通目標に努力しています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902306&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年2月21日

<家族との絆を大切にす通信>
このホームでは、毎月介護スタッフから家族の方々に施設のイベント開催の様子などをはじめとして、利用者の毎日の生活状況や健康状態、通院状況を極め細かに報告され、更に、ケアマネージャーの一言も添えて「家族通信」として送付されており、家族とより良い関係を築いていく工夫と支援がなされている。

<事業所と地域との連携>
施設では、町内会主催の清掃やイベント(アイスキャンドルの作製)等に参加しており、一方、町内会より、施設でのイベントの参加や運営推進会議での、施設の事業の取り組み内容や具体的な課題を話し合うなかで率直な意見をもらいサービス向上に活かしている。また、避難訓練では、施設と町内の連絡網体系が確立され、さらに、避難場所の確保として、地域広場や会館の提供など地域との交流と連携が図られている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に地域の中で信頼され、ふれあいのできる自由な施設を目指すことを掲げており、運営推進会議開催を通じ地域への理解をお願いしている。又、町内会の催事や集いに参加・協力しながら、地域と馴染みの関わりが出来る様、努めている。(清掃、アイスキャンダル参加等)	事業所独自の理念を掲げ、朝の申し送り時に唱和し、管理者や職員間で理念を共有して、一丸となって日々の実践に取り組んでいる。また、施設内には大きく理念の掲示をしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりが出来る様に共同作業、町内会行事への参加、施設主催の行事なども参加頂ける様にお誘いの心がけをしている。	町内会の各事業に参加を通じて、地元の人々との交流に努めている。また、ホーム主催のイベントの参加の呼びかけをして、地域活動や人々との関わりを積極的に行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通しホームの役割、業務内容のお話しをし理解を得る様に努め又、町内の生活上の悩み等に耳を傾け共存に努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	施設は指導に基づき運営実践のため、事業内容、業務報告をご家族や地域の方に示し色々な分野の有識者の意見をいただきサービス向上の一因としている。	年6回開催され、運営に関する報告や事業の取り組み内容の意見の交換の場となり、サービス向上にも活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の社会福祉協議会・介護高齢課が主催する研修、講演参加や会議への出席、又、困難な事項は関係機関に相談をし解決への努力をしている。	市担当課や包括支援センターと日常業務を通じて情報交換や連携に努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室は施錠は掛けていません。認知力低下の利用者様の身体保護の為に関係機関の指導の基、ご家族と話しあい納得を頂き、最小限度の期間を決め危険防止として行っている。拘束期間は経過観察記録を残し家族・関係機関と情報交換に努めている。	身体拘束廃止について管理者及び職員の認識の共有が行われており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在、関係機関の指導や家族と話し合いの納得での最小限度の期間の危険防止のケアに当たり、事業所の工夫や取り組み方針を策定され、厳重な観察のもと安全確保に努めるよう期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講演、研修等で習得した情報や知識を職員と共有し意見交換等で虐待とならない方法を模索する。又、ご家族にも必要時はきちんと説明を行い理解と納得を頂く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の介護高齢課が主催する研修、講演等に参加し学び、必要性に伴い関係機関と相談、話し合い権利擁護の制度を理解し支援に活用出来る努力をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	開始の段階より先にホームへの理解を頂ける様に説明、見学、質問等を都度実践している。解約に関しても利用者の立場を理解し対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に要望、不安意見等について傾聴する事を心掛けている。健康状態の変化時は速やかに電話で連絡しており、ご意見ボックスも玄関内に設置し意見・苦情等も表せる機会を設けている。	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように意見箱を設置しており、利用者、家族が気軽に話しがけの出来る雰囲気作りに努めている。また、市町村などの相談窓口の啓発ポスターも掲示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて職員全体会議、毎日の申し送り等で意見・問題点の提起を受ける機会を設けている。又、緊急を要する時は速やかに検討し向上と改善に努めている。	毎月の連絡調整会議や定期的に全体会議を開催し、職員との意見交換や提案を業務改善に活かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	緊急時出勤や残業時は振り替え休日に対応しています。サービス残業は無し。今後も働きやすい職場環作りに努力していきたい。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は必要に応じ、適宜、研修参加の機会を設けている。又、自主研修の呼びかけも常にしており、研修案内は全員が目を通せるように配慮している。上の資格を目指すよう指導しそのための必要な時間は優先し考慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者、グループホームの研修、講習を通し他施設と交流を持ち意見交換など介護の良い面を取り入れ、サービス・質の向上に取り組み努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用にあたり、今までの暮らしを伺いご本人が一番不安に思う事、困っている事、要望などに耳を傾け思いを共有し、ホームの生活は何時でも安心して寄り添いあえる馴染みの関係づくりに努力し安心を確保できる様に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と御家族との生活状況を伺い何を求められ利用したいサービスの確認を行い、その都度不安や要望等には必ず傾聴確認し信頼関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に見極めを基本と位置づけ努めています。どの様なサービスが求められているのか、本人・家族・関係機関などの情報収集を行い最も必要としているサービス提供と対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が今日まで歩まれた生活歴を伺うとともに今までしていた事・これからも続けたい事、これからしてみたい事等を本人を含め確認し共に寄り添い暮らし馴染みの関係を築くように努力している。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族へは、来訪時に近況報告実施・受診・外出・行事等はその都度お知らせしている。サービス計画立案の際に要望等を伺い参加の促しと日常生活の中での知恵を(花壇の手入れ、調理の手法等)頂いたり学びも多く共に馴染みの関係となれる様に努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得て、自宅へ外出、外泊して頂いたり知人との面会の際、居室でゆっくり出来る様に家庭的な支援に努めている。入所前からの愛用の物、思いでの写真等を部屋に置くなど促し配慮している。	友人、知人など馴染みの人との交流が途切れないように、面会、外出、外泊など希望に添える支援をしている。また、入所前からの思い出の写真などを置くなど促し、支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間・レクリエーション、花鉢の水掛け、洗濯物たたみ、調理の下準備など日常の暮らしの中で関わりが保てるように介護員が仲介となり共同の輪を保てるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に合せ御家族からの相談等があれば対応させて頂いている		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の現状を有りのままに受け入れ把握し、一人ひとりの意見・要望を傾聴し本人らしい暮らしが実現出来る様に本人本位に検討、個別ケアを重視し努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を、コミュニケーションや行動の表情から観察に努め、本人の意向にそった暮らしが出来るよう努めている。また、職員間でそれらの情報の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの経過、生活歴を関係機関からも情報を得る事や本人の馴染みの生活環境を重点に把握しサービス支援に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースを大切に意向を理解し日課活動を合せている。又、心身の状態に配慮し利用者個々の生活が長く維持出来る様、日々把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・主治医・看護師・介護スタッフなど関係機関と担当者会議、モニタリングを定期的に行い実施し生活を送るうえで何が障害になっているか、出来る事と可能性をアセスメントしており状況変化に合う介護サービス計画を立て実践している。	利用者主体の暮らしの課題とケアのあり方について、本人、家族、医師、看護師、介護スタッフのそれぞれの意見やアイデアを反映し、状況の変化に合う介護計画を立てて実践している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にサービス計画を立て、目標が達成されたか、サービス提供の進捗状況が決められた期間内に達成しているかをモニタリングし介護記録に記載し実践への反映に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望・意見など、要望の有った場合は柔軟な対応を実施する様に努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりが出来る様に町内会行事等にも参加し楽しんで頂くよう(芸能発表など)心がけている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に本人と家族の意思を尊重し希望のかかりつけ医師へ受診している。受診・往診前に細かい情報を文章にして提供、受診結果の指示を頂きケアに活用している。毎日のバイタル測定で早期発見に努め、症状に応じ都度受診をしている。	基本的に利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診・往診の支援が行われている。また、受診結果の指示を得て、看護師と相談し、今後のケアに活用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送り・定期的ミーティング・サービス担当者会議、特変時・受診等において連絡報告を実施し情報の共有と共働をている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族・病院側・ソーシャルワーカー等と連絡を密に出来る様、情報交換に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の気持ちを尊重しその都度お話しの中で確認し、各関係機関と調整を図り本人にとってより良い環境を提供する様に努めている	ターミナルケアを一部実践しているが、本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、看護職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症の対応、火傷、AEDの使用等の緊急対応について日頃よ意識を高め、速やかに対応出来る様職員は外部の研修に参加し努力している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	24時間緊急連絡体制を備え全職員がその手順を把握している。地域の協力を得られるように町内会に加入し地域の方にも連絡網を把握頂き協力を受けられるよう協力体制を築いている。	マニュアルや緊急連絡体制を備え、全職員がその手順を把握されている。また、消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を実施し、町内との連絡網を策定され地域との協力体制が築かれている。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮し家庭的な環境の中にも個人情報については適切な対応を常に意識し努めている。	利用者の尊厳を理解し、その人に合わせたケアを行うよう職員がミーティングなどで話し合っ情報共有している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望・意見を一番に意識し、自己決定ができる環境の提供に努め働きかけを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペース、気持ちに寄り添いその都度体調等を確認を行い、ゲーム・散歩など柔軟に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の着替え等は出来るかぎり本人が選択できるように援助している。定期的に床屋なども、介護員が仲介し本人の意思決定が反映出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食の嗜好を把握し一人ひとりの力を活かして、食べやすい食事形態に心掛け時間を気にせず本人のペースで食事を楽しめるように工夫をしている。又、食事の準備も職員と一緒に出来る様に努めている。	職員が献立を作っており、個々の食の嗜好を把握し、一人ひとりの力を活かしながら本人のペースで食事を楽しめる工夫をしている。また、食事の準備や片付けを職員と一緒にできるよう支援をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス(献立表)と摂取量・水分量をチェック表に記録し把握に努め個々の咀嚼状況に合った食品形態を提供する様に気を配り支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その都度、口腔内の清潔を促し、力に応じた支援に努めている。又、必要に応じ専門医師の受診とアドバイスを仰ぎ、個人に合った口腔ケアが提供出来る様に努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをチェック表に記録し、体質に合ったトイレ誘導、昼夜の下着類の選択活用(リハビリパンツ他)の実施と、居室にトイレが設置されているので他利用者などを気にする事なく排泄が出来る環境で個々の自立支援に努めている。	排泄パターンを把握し、事前の声掛けや誘導で他の利用者を気にすることのない居室のトイレの環境で、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より、スムーズな排泄が出来る様に水分摂取の促しや軽運動を提供し食事繊維質の食材を取り入れる等予防を意識した取組を個々に合せて行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後と本人のペースに合せた時間で入浴を促している。又、プライバシーの保護として個別入浴を原則実施している。体調を考慮し入浴の際は安全・安楽に気持ち良い入浴時間を提供できる様、努めている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に合わせて入浴が楽しめるように、個々の意向にそって安全、安心して気持ち良く楽しめる入浴を提供している。また、週2回を目安に入浴の支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各、自室に於いては安心や休息のできる環境作りと一人ひとりの生活習慣を一番に配慮し、身体に影響無いかぎり好きな時間に寝る事を制する事はない。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤管理は看護師の基で行っている。毎日の薬仕訳(個人用)職員が実施。薬の処方せんは個別ファイルに保管、いつでも確認できる。内服症状観察を行い飲み込み確認と力に応じ介助を実施。薬変更時も変更が記録され共有できる。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの張り合いと喜びを見出す様、身体的・精神的状態に合せ役割として楽しんで頂ける様に、調理準備、食器ふき、干し物たたみなど職員共に実践している。工作、読書、花壇の手入れなども楽しませている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの身体状態と希望に合わせて季節的にグループで外出を行っている。個々の希望等で定期的外出や行きつけの図書館、本屋、公園散歩、ショッピングなどで支援している。	出来る限り、一人ひとりの身体状況やその日の希望にそって、散歩や外気浴等戸外に出かけられるよう支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様とご本人の要望で小額の金銭を持つ事もあるも、認知症等もあり買い物時の支払いでご本人に手渡し体験している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に直接電話を設置可能、ご要望に対応し掛ける事もできる。又、本人と家族との電話とりつきもその都度速やかに対応している。手紙類も同様。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快感・混乱等を招かない様トイレは各自室に設置、入浴時の排泄も脱衣室隣に設置されている。冷暖房と床暖の活用・加湿器・空気清浄器を使用し快適な住まい作りに努力している。窓も天窓使用で光が多く室内に差し込む様、工夫に努めている	余裕ある空間の中にソファーや椅子テーブルを配置し、窓も天窓の利用で明るい採光に配慮している。また、床暖や加湿器、空気清浄機を使用し、清潔で快適な生活感と季節の催しの飾りつけなどに配慮して、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・椅子等の置き方に工夫を心掛けているソファーベットを利用して横になりたい時にも活用出来る。又、気になる臭い、不快な音、光の加減に配慮し季節感や家庭的な環境作りに努めている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面台・トイレを設置し利用者の使い慣れた鏡・テーブル・鉢物・家族写真なや仏壇等を持ち込まれ、居心地の良い生活場を提供出来る様に努めている。	利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や馴染みの品々を持ち込んで、居心地良く過ごせる工夫をして、全体的にきれいに整頓された居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の生活力が維持出来る様、日常動作がスムーズに出来る動線に配慮工夫している。入口や廊下、必要箇所には手すりを取り付け安全な環境提供と個別の自立支援に努めている。状態変化時は、話し合い最良の対応を心掛けている。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	おやつ時、市販品を提供している。利用者様と一緒におやつ作りを行い作ることの楽しみを共有すること。	利用者様と手作りおやつを作る。	・始めは4カ月に1回程度で行う。簡単なメニューから取り組み、試食を楽しむことが出来るようにすすめていく。	3カ月間
2	49	利用者様の外出は個別ケアで対応している事が多いが季節を楽しむ外出として、又、小グループで今以上に仲間意識を保てる機会多くしたい。	外出を通し仲間同士で季節感を楽しみ馴染みの関係を保つ。	季節感を楽しめる様に数カ月ごとに出掛ける。又、外でのおやつタイムなどを提供して行く。	3ヶ月間

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902306		
法人名	有限会社 健昭会		
事業所名	グループホーム太陽と緑 (緑棟)		
所在地	旭川市旭神町19番地36		
自己評価作成日	平成24年1月23日	評価結果市町村受理日	平成24年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別的な介護を実践して行く為、利用者の思いに寄り添い職場の都合ではなく利用者のリズムに合わせて対応出来るよう、こちら側が調整する事で希望や要望を叶えることに努めている。また、町内会の催しなどに出来る限り参加して頂いたり、日々の散歩や施設行事に町内の方を招いたりする事で、地域の方々の触れ合いも大切にしている。協力医療機関の支援を受け、看護師との連携も密にあることで、利用者様に確かなケアと体調変化時にも素早い対応で、安心して暮らして頂いていると思います。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/infomationPublic.do?JCD=0172902306&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年2月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ、朝の申し送り時に皆で唱和し、職員全員が理念を共有し、一丸となって日々の実践に取り組んでいる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に属し、清掃活動や地域のボランティア活動・施設行事への呼びかけや参加を通じて、地域の方との交流や連携を図っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の福祉関係施設と住民の懇談会に出席し、施設からの発信したいこと、地域からの疑問に思う事について意見を交換し理解を深めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一度、運営推進会議を開催し運営・取り組み状況など現況を報告し、意見を頂いている。しっかりと記録として残り向上につながるよう努力している。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点・困難な点があれば相談・協力頂いている。また、市の介護高齢課が開催する会議への出席、研修には必ず参加している。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体の直接的な拘束は無い。認知症による精神的な症状から大きな危険が及ぼすため、玄関の施錠はしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、職員に伝達し知識の共有をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んできた制度の活用や適用については、必要時検討している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解頂けるよう文面で表したうえで説明させて頂いている。また、不安点や疑問点については、その都度対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様との信頼関係を作り、意見や提案が言いやすい環境づくりに努めている。来訪時にも、お話を伺っている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度連絡調整会議、定期的に全体会議を開催し職員の意見交換を行い、反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、施設長・管理者・職員の勤務状況・能力を把握し環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の力量に応じ、外部研修への参加を推進し、面談する機会も設けながらステップ出来るよう配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の会議出席や研修参加で同業者と交流できる機会を持ち、サービスの質が向上するような働きかけがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階でお話しを充分にお聞きし、ここで安心して暮らせると思ってもらえるよう、その後も会話や表情・行動から不安な事や要望を確認し、職員で情報を共有して対応している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当施設のサービス内容を詳細に伝え、施設とご家族様が行う事をすっきりとさせる。そして、ご家族様が持つ疑問などに継続して答えていけるような体制と環境を維持する。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容(本人の身体能力、認知の状態、経済面、介護力)などを総合し、どのような対処が最適かを見極め入居や他のサービスの紹介も行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日ではないが、出来ること(調理・掃除)を職員と一緒にしている。(調理・掃除)		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の目からご家族様の目から見て最善のことをご本人様に提供できるよう、来訪時には近況を必ずお伝えし意見を頂いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年生活してきた場を出来るだけ再現するために、慣れ親しんできた家具を持ってきて戴いたり、ご家族様の写真を飾るなどして落ち着いた生活を提供する。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の程度や性格などにより、関わりが難しい方もいらっしゃるが、行事やレクリエーションを通じ職員が介入しながら良い関係が作れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移転した際には今までの経過や生活環境など情報を共有し新しい所でも暮らしが継続できるよう連携を図っている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一度のミーティングや日々の申し送り等から情報を共有し、日常生活の会話や行動・表情を観察しご本人様の思いに添った暮らしが出来るよう検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、またはご家族様から今までの歩みを聞き、なじみのある物を取り入れながらサービスを提供し、実践や経過観察し記録に残している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は、個人介護記録に記載し職員全員把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり、ご本人様・ご家族様・職員・主治医の意見を聞き、その人にとって必要である事や希望をプランとさせて頂き実施し、2~3か月に一度モニタリングを行っている。その間に大きな問題が生じた場合は現状に合わせ見直しをしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、その人の一日の流れがわかるようなものになっており、日常の変化や気付いた事が記載されており、計画の見直しに活かされている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様からの要望について、実現に向けて努力しているがご家族様のご協力も頂いている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物には、参加し地域資源のもとで心身ともに地域社会とのつながりを持ち続ける。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様の希望する病院に受診対応している。定期受診では、日常生活での情報を入れ、かかりつけ医と情報を共有しており大きな変化が見られた際には、GH看護師と相談のうえ都度受診を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員が日々の生活の中で変化のあった事・気づきなど施設看護師と連携を図り、指示や指導ものと対応している。また、24時間連絡の取れる体制になっており看護師・介護職員互いに情報を共有し、ケアに努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先にご本人様のADLなど情報を入れ、入院中は医療相談員・看護師と連絡を取り、疾患の状況・入院期間・精神状態の情報を受け、ご家族様との間でもお互いの情報を共有している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向け、ご家族様と十分に話し合いをした上で、事業所ですることを職員間で話し合い、ご家族の思いに寄り添い取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	迅速に対応できるよう、緊急時の連絡網を作成してある。また、急変時の対応についてはマニュアルも作成している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。また、運営推進会議でも対策を議題とし検討、町内との連絡網も作成し地域との協力体制も築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方を十分に理解した上で、声かけを行い職員間でもミーティングなどで話し合っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人が何を伝えたいのか、どんな思いであるかを会話の中から見つけ、選択肢の中から自己決定出来る声かけを考え支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたい時間は決まっているが無理に起こしたりせず、起きられた時間に合わせて調整するなどその日のペースに合わせて支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度、床屋さんの来訪がある。別の場所での希望があればご家族様の協力も得て対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が立てており、個々の好みも聞き入れながら立てている。食事と同じ時間に一緒に食べ盛り付けや後片付け等も出来る範囲で手伝って頂いている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量を都度チェックし一日のトータル量確認。状態や個々の状態に合わせて形態を変えている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じるが職員が付添にて、毎食後口腔ケアしている。また、口腔内の臭いが気になる時は緑茶を勧めたりする事もある。また、定期的に歯科受診や必要時往診もお願ひし、口腔清潔の指導も受けている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿の際には、チェックし定時にトイレ誘導を行い極力オムツの使用は避けている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の中に食物繊維の多い食品を入れたり、施設内での散歩やレクリエーション等体を動かす働きかけを行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週2回で設定している。入浴時間やお湯の温度は個人の好みに調整し、ゆっくりと楽しんで入って頂けるよう配慮している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は個室の為プライバシーは保たれている。ホールソファで眠られる方もいたり、強制はしていない。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の管理は看護師が行い、日々の服薬は職員がセット。服用までに3度の確認を行い、薬剤情報は個人ファイルに保管し、新たに処方された薬においても副作用等職員間で共有。その後の変化にも気を付けて観察している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の生活歴、身体機能、認知状態を把握し持っている能力を発揮できる機会を日常生活の中で活用出来、自信に繋がるような支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り応じ、個々の希望でスーパー等へ買い物へ行っている。夏には、畑の収穫や散歩・外気浴など戸外へ出れるよう支援し、ご家族様の協力も得て、一緒に買い物や外食・美容室へ行かされている方もいる。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望があれば、ご家族様と話しあい金銭管理して頂いており、職員が買い物に同行し実際に支払いされている。また、管理出来ない方についてはこちらで管理している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や他の用事で電話をしたいと希望があればいつでもかけて頂けるよう対応している。会話も子機を使用し自室で話せるようになっていく。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール掲示板には季節に合わせた飾り物を職員がそれぞれ分担し、工夫したものを取り入れている。共有スペースの大きな窓からも外が良く見え季節感が感じられる。冷暖房設備・床暖房設備も設置しており、夏も冬も快適に過ごして頂けるようになっている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールソファを設置し、入居者様が自由に座ったり、時には横になったりとくつろげるスペースを確保。1人になりたい時は、食事の椅子に座られたり居室で過ごされている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団類や小物などのなじみの物をご家族様と話し合いながら、設置している。認知の状態に合わせて、危険と思われるものの排除・必要と思われるものの搬入等、ご本人様またはご家族様と連絡を密にして安心して生活が出来るよう考えて設置している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること、や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共有スペースはシンプルな構造であり能力に合わせ、日常動作が出来るようになっている。廊下やホールは手すりが多く出来るだけ自立した生活が送れるような構造になっている。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18	利用者様のADL低下もあるが、日常生活の中で利用者様と一緒に何かをする事が減ってきており、長時間いすに座っている姿が増えている。	もっと家庭的な雰囲気互いに暮らしを共にしていきたい。	個々の身体機能や出来ること・出来ないことを把握し実践していく。	1年
2	36	1人ひとりへの声かけが荒かったり、失礼な声かけに聞こえる時がある。	相手の気持ちをしっかりと考え、その都度丁寧に対応する。	認知症について、もっと勉強していく必要があり研修への参加も勧めていく。	1年
3	33	外出後、手洗いやうがいをしていない職員も見受けられ、とくに今の時期は感染の問題もある為、再度徹底する必要がある。	感染予防を徹底する。	外出後は、うがい・手洗いの徹底と人混みの多い所や病院ではマスク着用の徹底。また、面会に来られた方にも促し。施設の感染予防マニュアルに添っての消毒を今後も継続していく。	3か月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。